

「僕のリスク、私のリスク ー生き抜くための危機管理ー」

日 時：2010年8月5日 9：30～11：00

場 所：泉区ボランティアセンター 多目的室

講 師：長谷川 祐子（在日米海軍司令部地域統合消防隊予防課課長）

運営協力：Safety Kids いずみ

参加者：13人（高2女子1人、中3女子1人、中2女子2人、中1男子1人、中1女子1人、小6男子1人、女子1人、小5男子1人、女子1人、小4男子3人）

オブザーブ参加：3人（小1男子1人、幼稚園児男子2人）

「危機」ってなんでしょう？「リスク」ってどんな意味だと思う？「僕のリスク、私のリスクー生き抜くための危機管理ー」は講師の長谷川祐子さんのこんな問いかけから始まりました。子ども達が事前に書いた「この講座を受講した理由」には「けんかや暴力から身を守りたい」「自分のまわりにはどんな危機があるか知りたい」「人の役に立ちたい」といった内容が書かれ子ども達の意識の高さが伺われましたが、それを受けて長谷川さんからは「あなたも私もみんな世界でたった一人の大事な人、大事な命です。自分のことも周りの人のことも大事にする、リスペクトする、それが基本です」というお話が冒頭にありました。

（以下、長谷川さんのお話）

さて、「危機」とは何でしょう？それは私達の大事な身体や心、生活を、脅かすもの、壊すものです。昔は怖いものと言えば「地震・雷・火事」でしたが、今はゲリラ豪雨もあります。ゲリラ豪雨や台風などの水害の後、水が出ますね。皆さんもテレビで道が川のようにになっているのを見たことがあるでしょう。あの水の中は歩いてはいけません。長靴でジャブジャブ遊ぶ水たまりとは違います。あの水の中には汚いものがたくさん入っていて危険です。

もしどうしても歩かなければならないときは長い棒のようなものを使って杖にしてください。マンホールの蓋が開いて落とし穴のようにになっていることがあります。杖を使って確かめながら歩けばそのような穴に落ちずにすみます。

麻薬もあります。テロもあります。戦争は日本に住んでいる私達には関係ないと思うかもしれませんが、突然ミサイルが飛んでくることがあるかもしれません。外国から汚染された大気や海水が流れてくるかもしれません。私達の生活は世界につながっており、危機もまた世界につながっているのです。そういう危機が起きた時、皆さんはどうすればよいかを知っていますか？こういうことは学校でも家庭でも教えてくれません。しかしこれらの危機があるということを知り、それについて考えること、そして対処の方法について知っておきトレーニングを積んでおくことは大変に重要なことなのです。

身近なところでは子どもに対する虐待もありますし、誘拐などの犯罪、家族間の殺人さえあります。皆さんは「自分には関係ない」と思うかもしれませんが、たとえばお父さんお母さんが突然病気になってしまうかもしれない、仕事を失ってしまうかもしれない。学校ではいじめにあうかも知れない、学習が遅れてしまうかもしれない、友だちとけんかをするかも知れません。常に「私の危機は何だろう？」と考え、想像し、備えることがとても大事なのです。

ではいかに備えるか？危機に備えるためには、まず「何が問題なのか？」をはっきりさせることです。

たとえば学校生活。学校が楽しい、友だちに会うのが楽しみ、勉強もおもしろい、ということなら問題ありません。でももし学校が楽しくなかったら、なぜ楽しくないのだろう？ということ自分で考えてみる。そして解決策を考えるのです。どうすれば学校が楽しくなるんだろう？ということを考える。もし自分ひとりで考えることが難しかったら、お父さんお母さん、学校の先生に相談してみてください。きっとあなたの話を聞いてくれます。こうして危機に備えることを英語で「リスクマネジメント」と言います。

アメリカでは皆さんのような子どもの頃から自分の力で危機に立ち向かう、サバイバルすることを学びます。たとえば一人で留守番しているときに「ピンポーン」と玄関チャイムが鳴りました。誰か来たようです。「こんにちは。お母さんに用事があります。お母さんはいらっしゃいますか？」と言っています。さあ、どうしますか？（小6男子）「お母さんは今いません」なるほど。でもそれではお母さんがいないということを知らない人に知られてしまいますね。そうすると後で家に侵入してくるかもしれません。さあ、どう答えたらよいでしょう？（小4男子）「今トイレに行っています」いいですね。でも「トイレから出てくるまで待っています」と言われてしまうかも知れませんよ。（小4男子）「今、手が離せません」そうですね。とてもよい答え方です。「今ちょっと用事をしていて手が離せません」という答えが一番よいです。これは電話でも同じです。要するに、この家には今子どもしかいない、ということを知られないようにするということが大事なのです。電話の場合は「あとでかけ直しますので、お名前と電話番号を教えてください」と言います。何か悪いことをしようとしている人は名前と電話番号を知られたくないですから、そう言われるとドキッとします。

それでは、何か嫌なことをされたらどうしますか？皆さんの身体は皆さん自身のものです。世界にひとつしかない価値あるものです。大事なものは自分で守らなくてはなりません。嫌なことは嫌とはっきり声を上げて守ります。NO！と大きな声で言ってください。触られたくない人に触られたら「触らないでください！」と、車に引きずり込まれそうになったら「やめてください！」と大きな声で言います。つかまれたら噛み付いてもいいです。蹴ってもいいです。なんとしても大事な自分を守ってください。

アメリカでは1980年代からPublic Education、公共教育の中で「予防教育」が行われるようになりました。その中でも代表的なものがStop Drop and Rollという身体や服に火がついたときにその火を消すための方法を教えるものです。これは身体や衣服について火を床や壁に押し付けて消す「窒息消火」のことです。料理をしているときや花火をしているときなどに身体に火がついてしまうことがありますね。そのようなときは決して走ってはいけません。走ると火がどんどん大きくなります。火が上に上がってきて顔の前にきます。火に包まれると人間はパニックになり、何も考えられなくなってしまいます。身体に火がついたらまずその場に止まる。そして火のついていない部分を床や机、壁でも何でもいいです、押し付けて消してください。

火事のお話をもう少し続けます。火災の場合に怖いのは煙です。煙は1回2回3回吸うともう身体が動かなくなります。意識はしっかりしているのに身体が動かず、逃げられなくなるのです。ではこの布で煙の動きを再現してみましょ。煙は最初このように細く立ち上ります。天井にぶつかって広がり、冷やされて床に下りてきます。下りてくるのですが、床から30センチくらいのところに来ると止まります。つまりこの部分にはきれいな空気が残っているのです。煙を吸うと大変です。さあ、どうやって逃げればいいでしょう？（子ども達）「低くなって逃げる！」そうですね。では皆さんでやってみましょ。

(煙のカーテンの下を這って逃げる実習) そうそう、皆さんとても上手です。でも匍匐前進はいけません。床にはほこりや汚れがあり、それらを吸ってしまうかもしれません。ちゃんと膝をついてハイハイの姿勢で逃げましょう。

次はこの音を聞いてください。「ピーピーピー」さて、何の音でしょう？(子ども達)「煙感知器！」そう、よく知っていますね。煙感知器です。先ほども体験したように、煙は空気より軽いのでどんどん上に上がり、天井に沿って広がります。煙感知器が天井に付いているのはそのためです。この機器は「ピーピーピー」ととても高い音を出します。なぜこんな音が鳴るようにしているのだと思いますか？(子ども達)「寝ていても起きるから！」そう、そのとおりです。このような音は周波数の高い音で、この音は眠っているときにも聞こえる音なのです。

さて、煙感知器の音が鳴って火事だということがわかりました。どうしますか？(子ども達)「逃げる！」そうですね。早く逃げなくてはなりません。どこから逃げますか？そう、ドアですね。でもちょっと待って。もしこのドアの向こう側が火の海だったらドアもとても熱くなっています。うっかりドアノブを触ると手を火傷してしまうかもしれません。手のひらを火傷したら何も持てなくなり、これから逃げるのに困りますね。ではどうするか？手のこちら側、甲の方を使います。手の甲を使ってそーっとドアに触れてください。もしドアが熱かったら、ドアの向こう側は火の海です。開けられません。(ドアを触って確認し、姿勢を低くして外に逃げる実習) もしその部屋が1階にあり、窓から外に出られるようなら窓から逃げてください。部屋が2階以上にあつて窓から逃げられなかったら、シーツやタオルのようなものを窓から振って「助けてー」と叫びます。シーツやタオルは白っぽいものが多いですね。白っぽいシーツやタオルは夜でも目立つので、消防士さんが見つけてくれます。

ドアが熱くなかったらどうするか？ドアを少し開けて確認してください。火がなければドアを開けて逃げますが、煙は充満しているかもしれません。先ほど学んだように姿勢を低くして、ハイハイの要領で逃げましょう。

(子ども達)「窓がなかったらどうするの？」ドアが熱く、窓もなかったらどうするか。信号を出してください。「僕はここにいるよ！」ということ消防士さんに伝えるのです。火災現場は実はものすごく大きな音がしているんです。でも定期的に出ている音、トントントンと机や壁を叩く音は、明らかに人間が出している音だな、と消防士さんは気付いてくれます。手で机を叩いてもいいし、本やバットで壁を叩いてもいいです。とにかく定期的な音を出します。声を出して叫んでもいいのですが、声を出し続けるのは疲れますし、すぐに嘎れてしまいます。声を出すのではなく、音を出した方がいいのです。(子ども達)「音を出し続けても助けに来てくれなかったらどうするの？」そうですね。そういうことも実はあります。壁が崩れるようになったら、救出される可能性はかなり低くなります。でも奇跡を起こすのは自分です。奇跡を起こすのは常に人間なのです。自分を信じて何かできないか考えてください。そのときのためにも普段から危機について学んでおくことが重要なのです。

さて、次はテストです。あなたは一人で留守番をしています。あなたの家は2階建てです。1階でテレビを見ていたところ、外で銃声のような音がしました。パンパン！パンパン！人の怒鳴り声もします。さあ、どうしますか？次の4つの中から選んでください。1. 外に飛び出して何が起こっているのかを見に行く 2. 1階の窓から外を見る 3. 押入れの中に隠れる 4. テレビを消して窓を閉め、そーっと2階に上がって2階の窓から外を見て何が起こっているのかを見る さあ、どれが正解でしょう？(子ども達)「4番！」そう、4番ですね。2階に上がって2階の窓から外を見て、一体何が起こっているのかを確認してください。まず大事なことはこの家に誰もいないかのように装うことです。それは自分の

身を守ることに繋がります。その上で何が起きているかを確認してください。もしかしたら何か役に立てるかもしれません。

もう一つテストです。あなたは妹と一緒にいとこの家に遊びに行きました。そうしたらいとこがきれいな菓をくれました。きれいな色をしていて、かわいいキャラクターもついています。「飲むととってもいい気持ちになるから飲んでごらん」といとこは言います。さあ、どうしますか？ 1. 知らない菓なので絶対に飲まない 2. 飲むふりをして捨てる 3. いとこが飲んだので飲む 4. 妹に飲ませる さあ、どうしますか？ 1番の人？ 9人ですね。2番の人？ 4人。3番は？ 1人いますね。4番。さすがにこれはいけませんね。どれが正解でしょう？ 1番です。絶対に飲んではいけません。いとこが飲んだとしてもあなたは飲んではいけません。飲むふりをして捨てるのもだめです。なぜか。一度飲んだと思わせると相手は二度目も誘ってくるからです。この間は飲んだじゃないか、と言われてしまうのです。麻薬がなぜ怖いか知っていますか？ 麻薬は習慣になってしまうから怖いのです。一度使うとまた使いたくなります。はじめのうちは自分のお小遣いで買えたとしても二度三度は買えません。そうするとどうなるか？ どうしてもお金が欲しいので、悪い事をするようになります。絶対に、一度たりとも手を出さない。これが大事です。麻薬を続けているとどうなるか知っていますか？ まず歯が抜けてきます。脳が侵されます。常に誰かに脅迫されているような気分になります。耳元でいろいろと怖いささやきが聞こえます。本当に恐ろしいものなのです。

ではまとめに入りましょう。大事なことは **Staying Safe**、安全でいること、です。そのためには危機を学ぶこと、そして危機に直面したら危機について学んだことを思い出し、自分を信じて行動することです。「行くぞ！」と勇気をもって行動し、危機から逃れてください。家にも時々遊びに来る知り合いのおじさんから「犬が行方不明になっちゃったんだ。白くてこんなに小さいかわいい犬なんだよ。車に乗って一緒に探してくれないかな？」と言われたらどうしますか？ 車に乗りますか？ 乗りませんね。でも何と言って断りますか？ 知り合いの人なので失礼にならないよう上手に断らなくてははいけません。どうしますか？ (中1男子)「急いでいるので」そうですね。いい答えです。では「道案内をしてくれない？」と頼まれたらどうしますか？ 知り合いの人ですよ。(小4男子)「道をよく知らないの」そうですね。では無理やり車に乗せられそうになったら？ さっきも勉強しましたね。そう、腕に噛み付いてもいいし、蹴ってもいいです。車のドアに足をかけてドアが開かないようにしてもいいですね。そして車の入れないような細い道に逃げ込んだり、コンビニや友だちの家に駆け込んだりでもいいでしょう。かばんを持っていたら相手の顔面に叩きつけてもいいです。誰でも顔面を攻撃されるとひるみます。その隙に逃げるのです。

インターネットを使う人、いますか？ いますね。インターネットで注意することは何でしょう？ まずは情報を与えない、ということです。あなたの名前も住所も学校の名前も、インターネットで知り合った人には何も情報を与えてはいけません。相手は子どものふりをした大人かもしれないのです。写真も絶対に送ってはいけません。もしプライベートなことを聞かれたら、すぐ大人に相談します。どこかで会おうと言われたら、**NO!**と言います。会ってはいけません。変な写真を見せられたら、これもすぐ大人に言います。

それから「いじめ」です。これはとても大きな問題で、子どもだけでは解決できません。もしいじめを受けたら、すぐに大人に話してください。自分たちだけで解決しようとは思わないでください。いじめに加わる側になってしまったら？ この場合もすぐに大人に相談します。

繰り返しになりますが、危機は自分で学び、考え、解決します。自分だけで解決できない問題は大人と一緒に解決します。基本にあるのは相手に対するリスペクト、尊重する気持ちです。あなたも友だちも誰もがこの世界のたった一人の大切な、価値ある存在なのです。それを忘れず行動してください。

今日は最後まで真剣に聴いてくれてありがとう。またどこかでみんなと会いたいと思います。

以上 文責：太田